

職業・労働の15首

黒岩剛仁・選

わたくしがどこにもいない教室にチヨークの音のみかたかた響く

有沢 螢

限りなき患者の愁訴聞いており忍の字にある刃を思いつつ

久山 倫代

ファックスの十ほど入り放牧のヤギを集めるごとく並べる

中川佐和子

外つ国の家族四人の一年を食わせうる額 請求書かく

永田 淳

芝庭の落葉を搔きてゆく熊手痒いところに爪立てながら

浜名 理香

書けばよし老いたる思ひを書けばよしかく思ひつつ机に一人

武川 忠一

なきがらを搜索する人、搬ぶ人、検死する人、記録する人

伊藤 一彦

着実に言われたことをする人はロボットのようにロボットはよし

大島 史洋

共産党のポスターに写り居る少女ものを言わざるままの微笑み

浜田 康敬

農機具庫のシャッター全て降ろし終へ仰げば星の瞬きてをり

時田 則雄

シクラメンの配置を換へてまた換へる花舗の人見てをり喫茶店より

花山多佳子

放射線の微光をおびて帰らむよ絹さやと油揚あぶらあげ忘れぬやうに

渡 英子

職やめて朝からビール呑みてをる無頼をゆるせさくら散るまで

萩岡 良博

平安たひらぎのなく定年を得たるとき子ら発ちてをり翔とぶが子どもか

伊勢 方信

何をして食べてゐるのか分からない叔父などがむかしどの家にもをりし

黒木三千代